

年 次	100	101
年 度	昭和49年	1975
校 名	武雄市立橘小学校	"
校 長	吉野千代次	緒方文雄
教 頭	川内正治	松尾眞澄
職員数	7	9
児童数	16	142
学級数	11+1	144
卒業生数	27	142
育友会	48	284
会長	本山昌太郎	11+1
副会長	大宅和三	289
摘要	中村義登	10+1
要	毛利勇夫	24
	北川登美子	27
		51
		〃
		00百周年記念式典奉行会
		0百周年記念事業として、校旗作成・第一校歌制定・百周年誌編集・旧校門付近の整備・百周年記念園づくり
		3・2創立百周年記念事業協議会発足(会長市丸欽氏)
		11・9市教委より体育研究(主として器械運動)委嘱
		26緑化と全国原花いづばいコンクール審査で優良賞を受く
		この参拝は、特に校長に相談して卒業旅行の費

橘小学校百周年によせて

佐賀市 小柳佐八

2. 煙 一反歩、借地(小ノ原)
3. 桑園 二畝(尾崎医の南側)

手入れだけを引き受けた。

これ等の農園を經營するには、規定の時間ではどうにもならないので、規定時間の外に、相当の実習をやりました。

特に夏休みに出勤して高等科の生徒を召集し実習をやり、時には夕方遅くまで農作業をやつても、生徒達は、何一つ不平を云う者はなかつた。

これ等の農作業用の鋤や鎌は、一学級の生徒分が揃えてあつたが、畳摺り用の道具がなかつたので不自由をしていました。

幸いに、或る農家が、他へ転業されたのでその家の用具を相談して、学校用とした。

農作業の収益は、小作料の他、農器具の買入いや、修理・高等科生徒の修学旅行の補助に使つた

その他、橘村農業暦を作り、一部は復写して、学校に残してあると思います。

こうして農業教育が実践されたが、幸いにも郡長より表彰を受け、賞状と現金参拝円を頂いた。

この参拝円は、特に校長に相談して卒業旅行の費

用に充当した。(大・九・卒)
当時としては思いきった卒業旅行で、三泊四日間あの有名な耶馬溪の探訪、九大線はなかったので日豊線中津駅下車徒步で耶馬溪に、旅費は一人当六円五拾銭(日当、五拾銭)の積立で実施した。その他としては、

1. 郷土史の編集(橘・朝日・武雄合併)を行な

い一部は松尾兼次氏へ寄贈したが、松尾氏は学

校へ寄附したとのことです。

話によると現在橘に一冊だけ長泉寺の滝川先生宅にある由。

最後になりましたが、橘小学校の益々の発展と橘町の誇栄を祈念して、思い出の稿を終わります

そこで第一に理科教育について思い出を書きますと、
大戦直後の、経済変動の激しい時代で私の月給式
拾円、米一俵が式拾円で佐賀県下に、米騒動起こ
り、軍隊迄出動した頃でした。

そこで第一に理科教育について思い出を書きますと、
1、簡易兒童実驗用具の作製

2、理科特別教室の設置

(旧校舎二階の一室を充当)

3、鳥獸の剥製標本の製作

4、橘村植物標本の作製と調査し特に植物等を、
小林秀一郎と共に実施

の調査では、村内は勿論のこと、村内の山々に登

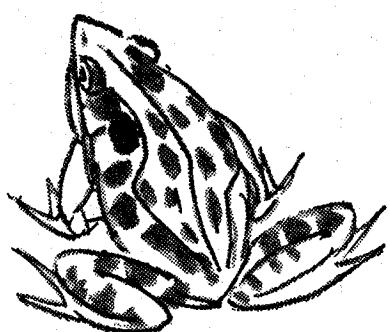
り調査しました。これは復写をして小学校に一部

残しました。

第二に、農業教育について書きますと、

一、農園として

1. 水田 二反三畝(小ノ原、堤の下)



橘小学校における

ドルトン＝プラン

導入研究について



(一) ドルトン＝プランについての解説

「佐賀県の歴史」—城島正祥・杉谷昭共著

山川出版社、二〇四頁より抜粋

(1) 「世界新教育史」の記事による解説

ボイドおよびローリンによる最近の名著「世界新教育史」は第一章のはじめに、「統治形態は大なり小なり民主化されていたが、学校は專制的な方法で訓練することを続けており、市民の養成に必要な自己規制のための方法をとり入れる余地は全くなかつた」と第一次世界大戦前までの教育について述べている。「生活と労働の機械化の増大は、個人の技術や就業の訓練に対する要求や機会を徐々に縮減し、また製造工場のように子供を鋳型にはめこむ学校では、子供たちはじつとすわって受身で授業に吸い込まれるようにあってほしいと期待された。教育者が学習における個人の興味の価値について発言することができたとしても、当時のきまりきった学校のやり方のなかでは、興味を生かすことはほとんどできないのであった」と反省している。

世界がそうであったように日本も画一的な教育

ヘレン＝バーカスト女史は一九一〇年にドルトンという小さな町で教鞭をとつていた有能な若い婦人であった。……子供たちは朝の集会にあつたり、それから各自その日の学習計画を立てる。ついで各自が学習しようとして選択した教科に合つた特別な実験室へと入つていくのであった。そこでは、自分の興味が続くかぎり自分で学習が進められた。その月にそれぞれ割り当てられた課業を月末までに仕上げるのが彼等の義務であった。彼等はそれぞれ自分の最善と思われるままに、日々の課業を自由に処理してよいのであった。

(以上、世界新教育史より)

(2) 日本におけるドルトン＝プランの導入と

このドルトン＝プランは大正十一、二年ごろ日本にも紹介され、富山県・愛媛県などの師範附属

は、全国的運動と呼応して、県下の理科教育・歴史・地理教育などに強い影響を与えたことは注目すべきであろう。

日本におけるドルトン＝プランの導入と

このドルトン＝プランは大正十一、二年ごろ日本にも紹介され、富山県・愛媛県などの師範附属

(二) 前山琢磨先生宅を取材訪問した記録

(1) 記者註

(訪問者、吉野)

橋小学校が理科教育や陸上で県西部の優秀校として教育界の注目を集めたのは、この研究の前後

のころである。

(1) まえがき

橋小学校一〇〇年史の編集を企画して以来、県立図書館等をあさって資料を集めている時、たまたま前章の佐賀県の歴史の記事が見付かった。それを更に深めるべく、昭和五十年二月のある日、東多久町別府の前山先生のお宅を取材のため訪問しました。前に電話でお願いしておいたため、前山先生ご夫妻共ご在宅いただきました。以下その一問一答です。(案内を多久中部小の飯守長にお願いしました。)

(2) 質問

先生は大正八年から昭和四年まで十年間、橋小学校に勤務いたしております。その間、米国での新教育運動で提唱されたドルトン＝プランの研究にとり組まれたと承っております。これは画期的な教育研究であり、県内外に非常な反響を呼んでいます。しかしこの『教育方法上の革命論』の精神は、現在もなお受け継がれていることを橘小学校を訪れた者は一見して感得できる体制にあることはうらやましい。

前山氏は第二次世界大戦後の新制中学校においても学校長として活躍し、戦後の新教育の中心となり、多久市の教育長・県の社会教育委員などを歴任した。現在は引退しているが学制九〇周年記念行事では、文部大臣の表彰を受け健在である。

これ等の佐賀県下における新教育の先駆的運動

小学校・長崎県盈科小学校・福岡県大牟田市内各学校などで実践に移された。

佐賀県には東京成城小学校創立者、沢柳政太郎博士の系統がはいつてきた。

当時、杵島郡橘小学校の山口良吾校長と前山琢磨訓導とが県下における新教育運動の先端をいった。山口良吾校長は、『郷土教育』と称して、郷土の先人・偉人の業績を顕彰し、理論よりも実際教育を重視して、児童たちに山から石を運ばせ記念碑などを建てた。郷土愛の啓発によつて人材を養成しようとするものであった。

この校長の理解と支援のもとに、前山訓導は東京に沢柳博士を訪ね、パークアスト女史に会い、岡山県倉敷小学校においてドルトン＝プランを実践していた斎藤訓導と共同研究をつけながら、大正十年、第五学年と第六学年とにプランを実行した。それは、『分団式動的教育』とよばれた。

まず児童を成績段階にわけ、各教科担任を中心立てられ、各個人の目標と割当作業表(進度表)が作成された。国語・算術・珠算・歴史・理科の五教科の各教科研究室を設け、図書・器具類をそろそなえ、自主的に能力に応じて勉強させたのである。能力の劣る者たちは、学級担任が責任をもつて一般授業をおこなつた。能力のすぐれた者は、自由に実験し、集められた参考書などを自由に使用して、グループ学習を中心にして、各研究室の教科担任の指導を受けてグングン能力を伸ばすことができた。これ等の研究生も体操や図画などは一般的の学級編成にもどつて授業を受けた。

(1) 当時は六題教育思想と云つたものが全国的に普及はいとしておこつていました。

例えれば

- 明石師範の分団的動的教育
- 千葉師範の自由教育
- 成城小学校沢柳政太郎博士(当時、帝國教育会長)のドルトン＝プランの研究。等々

新教育研究の機運が全国的に熟した時代でした

(2) 当時の橘小学校山口良吾校長は、積極的・意欲的に教育研究に取り組み、「人格復習主義の教育」と銘うつて、教育の革新を実践しようとした。『人格復習主義の教育』とは、教育による人格の形成は、親から子へ、先祖から子孫へ、「人間の血はまわつて行く」という考え方を基調とするもので、親の教え、先祖の教えを尊重し、その教えを日々の教育の中に生かす手段・方法を工夫して行こうと云う考え方でした。このような意味で、橘小学校創立五十周年を記念して軌範の碑を建て、孝子・節婦や郷土の先輩偉人を顕彰し、又その教えを歌に作詞作曲して朝会等で子供にうたわせる等の工夫もされました。又元正天皇の御製を校歌にされたのもこのごろです。

(3) このような校長であったから、ドルトン＝プランの創始者パークアスト女史が福岡に講演に来られた時も、当時の教務主任であった小林秀一郎先生と私を福岡の講演会に出席させ、研究に取り組むようにされたのです。

(3) 質問 2

ドルトン・リープラン導入による教育の実際についてお聞かせください。

◎ 答

(4) 五年と六年で実施しました。

(5) 各教室を教科的につくりました。——理科教

室・算術教室・地理教室・歴史教室等。

(6) その教室はグループで話し合われるようになりますが、どこにすわってもよいことにしていました。

(7) 子供たちは各自進度表をつくり、(一週間・

一ヶ月・一学期の計画をたてる)それにもとづいて自由に時間的制限もなく、自主的に研究し

研究が終わったら教科担任の完了印を受けるよ

うにしていました。

(8) 従つて能力の高い者はどんどん研究が進み、

遅れる者は膝下指導で補いました。(各人の学

習の進み工合は、教室に各人別の進度表を掲示

していました。)

(9) 又研究後の一斉指導の時間をとり、能力に合

うような指導も工夫しました。これは能力別グ

ループ毎の指導にすることもありました。(研

究と一斉指導・整理との時間配分化は八対二ぐ

らいにしていました。)

(10) この研究が一番うまく行つたのは、理科教

育であったと思います。理科では実験器具を学

年別・教材別に整理しておき、子供はグループ

で自由に実験して研究を進め、教師に質問して

研究を深めて行きました。そのため子供の研究

意欲も高まり、理科室の研究の雰囲気はすばら

うにしていました。夜を徹して語り合いました。又月二回ぐらいい武雄に活動写真を見に行きましたが、それが何よりの楽しみでした。

講習会にも暇を見つけて出席しました。職員間

はお互にゆずり合い、研究の機会をつくるようにしたものです。

思い出話は延々と続き、とどまる所を知らない

五十年前を振り返へつて



横浜市 中島信夫

私達昭和二年卒業生は数えてみると橋小学校百

年間の真中五十年を中心六年間を学んだことに

なる。『光陰矢の如し』とか、当時の悪童たちも

早や還暦を迎える年齢になつた。

大正十年四月五日、校庭の桜吹雪の下を市丸先

生に導びかれて古代人の住居のような藁葺屋根の

床の高い南校舎の教室に初めて顔を会わせた五十

余人の子供達、初めての共同生活に不安におのの

く私達の胸に柔しい先生の声も殆んどききとれなかつた。

それからの六年間、担任の先生も山崎秀雄先生原先生、武雄先生、橋口先生と次々に替られたが私が一番困ったのは唱歌の試験で女の先生の時は最低、男の先生の時は中位と変り、最近の同窓会でも余興に黒田節をうなつたところ原先生に『唱

つて、夜を徹して語り合いました。又月二回ぐらいい武雄に活動写真を見に行きましたが、それが何よりの楽しみでした。

講習会にも暇を見つけて出席しました。職員間

はお互にゆずり合い、研究の機会をつくるようにしたものです。

思い出話は延々と続き、とどまる所を知らない

有様でした。いつまでも名残りが惜しまれました

が、次の仕事もあったので約九〇分ぐらいでおい

とまをいたしました。

橋小学校の黄金時代を築いた老先生の声は氣魄

に満ち、若々しく、今でも私の耳に残っているよ

うに感じます。

(六月七日、吉野記す)

歌はいつちゃんと歌いきらっさんじゅつにほんに上手になんさつたあ」とほめられた位である。

校長先生も山口良吾先生から津山彦七先生、齊

藤忠先生と替つてゆかれたがどういうわけか津山

先生のことが余り記憶がない。担任の先生以外に

は小林秀一郎先生、前山先生、渋谷先生、前田先

生、藤木先生等で、小林先生は崇専寺の仏教・日

曜学校で色々とお世話になり、前山先生はドルト

ンリープランという新しい教育法の実施者として、

また渋谷先生は西郷どんのような身体で四年の時から剣道を教えて貰つたし、特に私は国画の指導をして貰つたが今考えてみると先生に教えて頂いたというより一緒に校外写生に出かけてお菓子等を貰うことの方が楽しかつた。前山先生は男のよ

うな太い声で元気な方だったし、担任の武雄先生

は武雄神社の神主さんで仲々厳格な人だつた。

軒端の雀の巣を取るために天窓を抜けようとして窓ガラスを落して壊したり、掃除当番中にふざけ

て山崎寛君の頭を机の角にぶつけ、血だらけに

したりして、何回か廊下に立たされたことを憶えている。

山口良吾校長の時代はそれこそ橋小学校中興の

秋とも言ふか、教育指導にスポーツに一斉に花

が咲いた感じだつた。特に先生独特の郷土愛を基

調にした教育方針の一つとして校門を入つた左側

に立派な規範碑、功績碑が建立され、幼ない私達

に郷土の先人達の勲功が強く植つけられた。この

碑の除幕式に綱を引いた藤武さんのお嬢さんが後

に横浜で知合つたのも何かの因縁かと思う。更に

校門の正面に白梅の古木を背にして校歌碑が建て

られたのもこの頃である。

渋谷先生の剣道熱心は大変なもので私など竹刀

も求める余裕のない者は青竹を竹刀の長さに切り

素振の練習で油をしぼられたが、昭和の初期には

橋小学校は何回か全国征覇を遂げたし、後年、先

生の教え子の中からは全国剣道大会に優勝した者

もある。五・六年生の頃は私や井上平君など時々

先生の家(当時、武雄公会堂下にあった佐賀屋旅館)に遊びに行き池の掃除やセパートの運動を仰

せつかつたものである。

当時の学校の建物は往還(長崎街道)の東側に南から今にも天井が落ちそうな二階建の雨天体操場があり、その前の広場は昔の運動場の名残りでその広場の北の端にモダンな回転吊輪が一基つていた。その北側に藁葺屋根の南校舎があり、こ

(1) この研究が小林秀一郎先生の力で発展し、橋

小学校理科教育の黄金時代が築かれ、又陸上方

面では小柳先生を中心とするみなさんの指導で

「武雄小に負けるもんか」と云う努力となつて

ました。従つて先生も、どんな質問にも答えられ

るよう、一生懸命勉強して準備したものでした。

(2) 又各教室共、自主的な学習の雰囲気ができ、

先生へ自由に質問することが盛に行なわれてい

ました。従つて先生も、どんな質問にも答えられ

るよう、一生懸命勉強して準備したものでした。

(3) このようにして教室環境も整い、先生の教材

研究も深化し、学習する子供も意欲的で、静か

な中に真剣に研究に取り組んでいました。又問

題をもつて教室に臨むこと、これは英才教育に

もつながり、意欲のある者はどんどん学習が深

化したように思います。又グループ内での協力

共学習の気持ちも高まり、仲間意識もでき

後片付まで立派にするような習慣も身につきました。

(4) 質問 3.

橋小学校在任中の思い出などお聞かせください

◎ 答

(5) 子供のため(児童中心)の教育という事で、

村当局や父兄の理解も受け、校長は予算獲得に

努力して、備品費・研修費などたくさん組んで

いただきました。戸棚にはすばらしい備品が一

ぱい並んで子供の研究に使われました。しかし

ガリ板や研究図書など自費で購入し、仕事を自

宅に持ち帰つて夜おそらくまで仕事をしたことを

おぼえています。それでも興味と誇りを持って

いたので、少しも苦にはなりませんでした。先

生方皆さんのが各自の個性と能力に応じて真剣に

取り組んでおられました。今思い出して、樂し

い青春の一時期であつたと思つています。

(6) 質問 4.

又山口君(山口良吾校長のご子息、後判事にな

られた)は熊本第五高等学校にトップで入学し

山口重蔵君もよく勉強していたことをおぼえて

いました。

(7) 当時の教え子としては、吉野一郎君・沖永

・野田次一(教頭)先生、淵上先生等のご努力

もすばらしかつたと云うことです。)

(8) 渕上九郎左衛門先生の一〇〇・二〇〇の優勝

角先生、松尾先生と組んだ八〇〇リレーの優勝

(教員競技)など頭に残つていると云うこと

でした。若かりし時、前山先生は各方面に活躍

しておられたようでした。

(9) 時代は野田次一(教頭)先生、淵上先生等のご努力

の成果であったとか、又前山琢磨先生のご努力

もすばらしかつたと云うことです。)

(10) 渕上九郎左衛門先生の一〇〇・二〇〇の優勝

角先生、松尾先生と組んだ八〇〇リレーの優勝

(教員競技)など頭に残つていると云うこと

でした。若かりし時、前山先生は各方面に活躍

しておられたようでした。

(11) この頃、君づけをお許しください。前田先生

のお話を速記しましたのでこんなに書きました)

○ 教室移動の時は静かに一人の研究の邪魔を

しません。

(12) 又この頃、君づけをお許しください。前田先生

のお話を速記しましたのでこんなに書きました)

○ 教室移動の時は静かに一人の研究の邪魔を

しません。

れに並んで北の方に中校舎、北校舎、新校舎と瓦葺平屋の棟が建ち並び一番北側の新校舎の往還に面した側が職員室で、その後方は女子の高学年の三教室が並んでいたが、この教室の仕切りは簡単に取りはずされて祝祭日や卒業式等の時は講堂に早変わりした。職員室の北側に池を背にして養護室宿直室、要務員室があり、鳥越勝六さんが忙がり小さい身体を動かして始業、終業の鐘を鳴らしたり、中食のお茶の準備をしておられた。

当時、男の先生方は紺か黒の詰襟服、女の先生は和服に紺か海老茶の袴が殆んどで渋谷先生のように給せによれよれの木綿の袴の人もあった。

男の生徒は殆んど久留米がすりに兵児帯姿で藁草履か下駄、たまに靴を履いているのは飴色か黒のゴムの短靴、女の子も殆んど変らず、袴を着けるのは祭日等に式がある時か卒業式ぐらいだった冬は皆、綿入の紳天を着ていた。然しつつ一度雨が降ると村中にいたるところ泥んこ道で、特に梅雨期等は大日・沖永等は道か田圃か区別がつかぬ程で、履物等履いて歩ける筈もなく、大部分の生徒は素手で登校した。そのために南校舎と中校舎の東側と校門に入った左側に足洗いの池が設けられ、特に面白かったのは、北校舎と新校舎の間に中一メートル位の小川が流れおり私達は登校時も運動場で遊んだ後で教室に入る時も一斉にこの小川にとび込んで歩き乍ら足の泥を落して各自の教室に入った。

往還と校舎側との境は生垣で仕切られ、その内側には学区別に十三の庭園が設けられ、私達は自分達の花壇を綺麗にすることを競い合った。この

習慣が受継がれて、橘小学校が県下では緑化推進運動の優秀校になっている遠因ではなかろうか。

年中行事としての秋の運動会は賑やかだった。

競技は総て学区対抗戦だったので各部落共家族組出の応援を行なわれ、競技が終って秋の太陽が御船山の彼方に傾く頃、戦果の赤や青、白の紙旗を差し込んだ藁ツトを青竹の先にぶら下げて意氣昂々と引き揚げたものである。私も徒步競争は一年から五年まで敗けたことはなかったが六年の時、

朝鮮から転校して来た野口君には遂に勝てなかつた。級友は彼のことを「飛行機」と呼んでいた。

十二月には農業品評会が開催され、丹精こめて栽培された大根・ネギ・牛蒡等が教室に並べられ審査が終わり金・銀・白の入賞の印がつけられた

そのころの故郷は平和だった。春はれんげ草の田圃に転りたわむれ、雲雀の巣を捜して麦苗や菜の花畠の中を走り廻り、夏になると井手の橋から野越にかけての潮見川は我々にとっては格好の水練場だった。秋には体操の授業をとりやめて裏山の松林できのこ狩をやったり、潮見神社の彼岸のぼりには朝からきこえてくる笛や太鼓の音に勉強も手につかぬ生徒のために正午まで早退が認められるなど、割合に自由な教育振りだった。

級友には勉強では松尾(友)君・藤木君・山崎(寛)君等、運動では野田君・楨(末)君等、喧嘩では林田君・楨(太)君その他大勢といふことになるが、今日の櫛崎の三人トリオ県議の山崎君前校長の中村君・市丸君が余り記憶にないのはどういう訳だろうか。又、当時は男女共学ではなかったので女の子は新店のオハッちゃん・松尾喜佐

子さん・諸岡さん・林田秋子さんぐらい。(他にも人がおられたことでしょうがお許しの程を)しか憶えていない。

大正十五年におんぼろ雨天体操場が取りこわされ、その跡に二階建の新らしい校舎が建ち高等科と共に私達も二階のベンキの香り高い教室に入る事が出来た。その年、十二月二十五日、中学進学の補習授業中、天皇(大正)のご崩御を知らされ一瞬茫然となつたのも遂この間のような気がする。

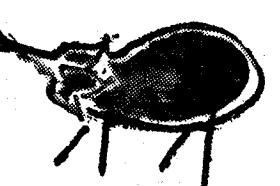
現今、人は当時の教育の在り方を云々されるが私達にとっては勉強もスポーツも喧嘩も自由に気楽にただ日常生活の一環としてやって來た過ぎなかった。

灼熱の真夏の太陽の下で、或いは寒風吹き寒さむ真冬の候に泥にまみれて陣取競争や騎馬戦、時また棒倒しに我を忘れて暴れ廻った小学校時代の想い出は湧々として尽きない。

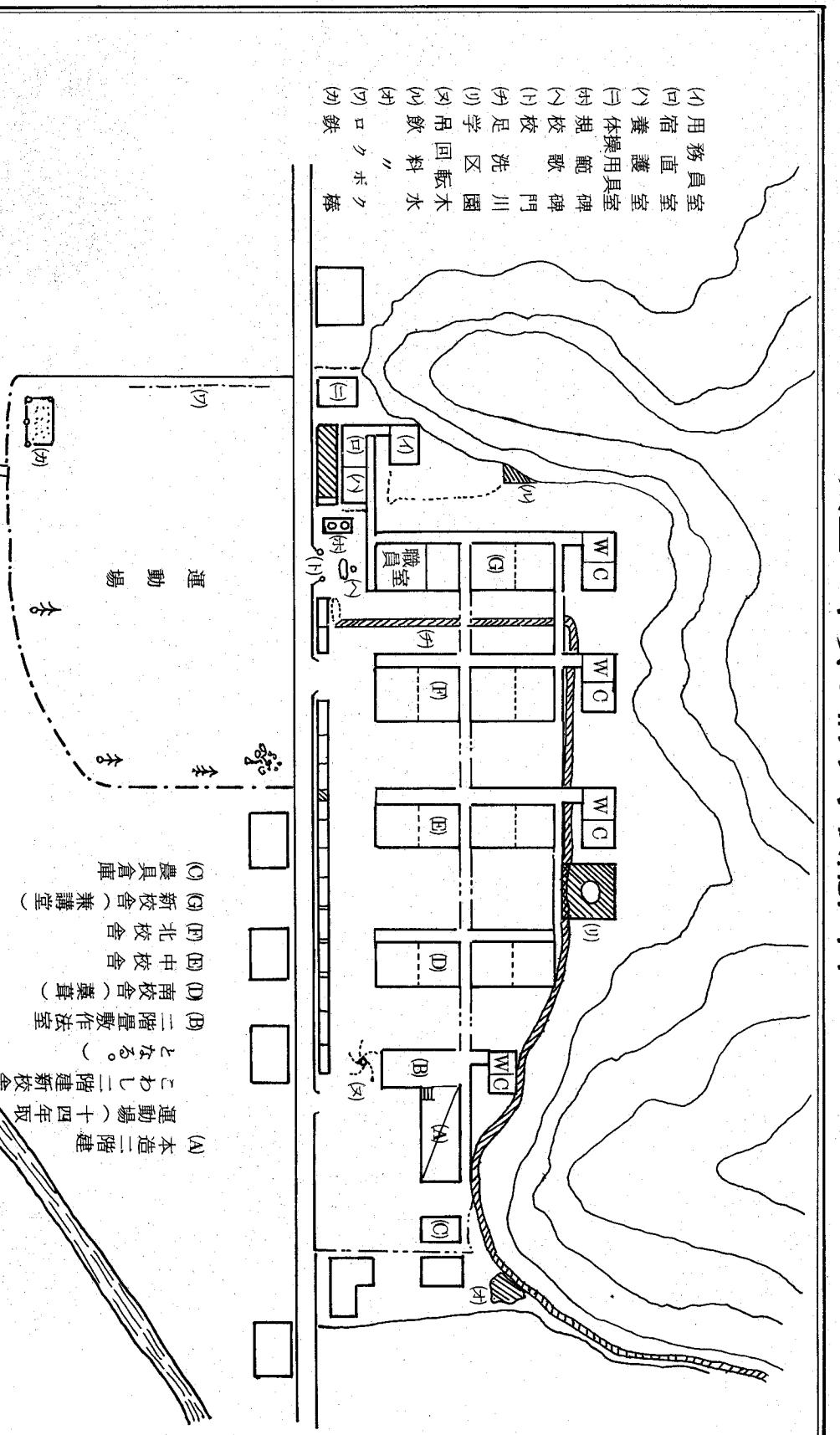
今、母校橘小学校の創立百周年を心からお祝い

するとともに同窓諸賢のご健康をお祈りいたします。

(現在、横浜市在住)



大正12年頃の橘小学校配置図





渋谷慶太郎先生と剣道

東京都松本哲郎



私は昭和九年三月橋小学校高等科を卒業した者です。本年三月十六日に開かれた東京橋会総会の席上、遠路駆けつけて列席された現橋公民館長市丸欽二先生に何十年振りにお会いした折、先生から橋小学校百周年記念刊行物に掲せたいから、「渋谷先生と剣道」について思い出を書くよう依頼されました。私は橋小在学中は剣道の選手でもなく、何の活躍もしなかったので、選手だった先輩や現在もその道で活躍して居られる渋谷先生のお弟子さんなどたかに書いていただくよう提案しましたところ、範士をしておられる森田信尊氏に依頼状を出したが、お都合で書けないとのことだし、又他の方に頼むのも難しいからとたってのお依頼があったので僭越ながらお引き受け致しました。然し文章には強くない方だし、読んでいただけでもやっていただけたら幸いと存じます。

今は既に亡き渋谷先生や昭和七年から二十年までの長い戦争で尊い生命を捧げられたりその後他の頼されました。私は橋小在学中は剣道の選手でもなく、何の活躍もしなかったので、選手だった先輩や現在もその道で活躍して居られる渋谷先生のお弟子さんなどたかに書いていただくよう提案しましたところ、範士をしておられる森田信尊氏に依頼状を出したが、お都合で書けないとのことだし、又他の方に頼むのも難しいからとたってのお依頼があったので僭越ながらお引き受け致しました。然し文章には強くない方だし、読んでいただけでもやっていただけたら幸いと存じます。

大正末期から昭和十年頃にかけての十何年間、橋小学校に学んだ者にとって歴代の校長先生のお名前やその功績を思い出すのはかなり難しく、でも一私自身も斎藤忠校長先生の大柄なお体軀と半白のイガグリ頭と鋭い眼光、それにタンカミ、小柄な岩淵校長先生の眼鏡とチヨビひげぐらいしか思い出せませんが、一剣道のこわい渋谷先生のことを思い出せない人は、先づないと思います。先生は訓導としてクラスを担任して、小学生の教育に当られるかたわら、男生徒の剣道を佐賀県一から日本一にまで引き上げた。後にも先にもない唯一人の功労者であると言つても、決して言い過ぎではないと思います。

四十数年前をふり返って、先生の一途なご熱心さには、その頃のささかへきえきし、半ば恐れを抱きながらも心の中にはいくばくかの反抗心を持っていたが、次第に高学年になるに従ってそれが尊敬の念に変つていったと思いますが、これは先生のもので、春夏秋冬十年一日の様に照る日も降る日も、剣道の稽古をやらされた橋小学校の四年以上の男生徒の全員が恐らく感じていたことだと思います。

然し、故人となられた先生を想うとき、あの私を忘れた先生の無類の熱意と精力と実行力と生徒の統率力には自然に頭のさがる思いであり、深い敬意の念を禁じ得ません。

四十数年前をふり返って、先生の一途なご熱心さには、その頃のささかへきえきし、半ば恐れを抱きながらも心の中にはいくばくかの反抗心を持っていたが、次第に高学年になるに従ってそれが尊敬の念に変つていったと思いますが、これは先生のもので、春夏秋冬十年一日の様に照る日も降る日も、剣道の稽古をやらされた橋小学校の四年以上の男生徒の全員が恐らく感じていたことだと思います。

四十数年前をふり返って、先生の一途なご熱心さには、その頃のささかへきえきし、半ば恐れを抱きながらも心の中にはいくばくかの反抗心を持っていたが、次第に高学年になるに従ってそれが尊敬の念に変つていったと思いますが、これは先生のもので、春夏秋冬十年一日の様に照る日も降る日も、剣道の稽古をやらされた橋小学校の四年以上の男生徒の全員が恐らく感じていたことだと思います。

先生との巡り合い

渋谷先生を初めて知ったのは大正十五年四月に私が当時の橋尋常高等学校に一年生として入学した時でした。入学式の時、三年か四年男子の担任の先生として紹介されてから、「やかましい先生だ」ということを人からきき、又先生の学級の

生徒が会員暗くなるまで残されて帰れなかつたとか、いろいろのこと

を聞いて「恐い先生」という考えが頭にこびりついて、廊下などで先生に会つた時など、あのギョロッとした眼でにらまれないよう、何か小言を言われないよう丁寧におじぎをしたものでした。

他の生徒達もそう考えていたと想像しますが、渋谷先生の担任にならなければいいなあとひそかに願っていたものです。一年生の時は、温和でやさしい小田(女)先生で、二年一学期は若くて美人の古川先生、二学期からは若くて元気溌剌とした短距離の速い中尾輝行先生(現在は鈴山先生)三年は、書家で学者肌の遠江八郎先生、四年は、山崎秀雄先生、五年は強い近眼鏡をかけた若い、黒岩藤男先生、六年は重厚な前田哲男先生、高一是面白い川崎三郎先生、高二是スポーツに強い、市丸欽二先生の担任で、幸運にもそれを免れました。

三年の時のエピソード

剣道とは全く関係はないが、私には忘れることが出来ない事件があったので、恥をしのんで敢えて告白しましょう。私の同級生の中にもそのことを覚えておられる方があると思います。

それは確かに三年生の寒い頃だったと記憶しますが、教室は新校舎(南端)の次の藁葺屋根校舎の東から二番目の教室で、教壇の後は渡り廊下になっていました。東隣は渋谷先生担任の四年男子の教室でしたが、仕切りは壁ではなくて、取りはずしの出来る天井までの高さの長い木の衝立のよう

なもので、職員室のあった北端の校舎ができるまではそれを取りはずして講堂に使われていたと思

います。その木の仕切りはかなり古くなつていて、あちこち割れたり小穴があいたりしていました。

その日は担任の遠江先生がお留守だったので、クラスは自習でした。いつもの通り級長だった私が教壇に立つて代りの授業をやっていました。今から考えると誠に辱かしい限りですが、それでも皆騒いだりしないで協力してくれたので、隣接のクラスの授業のさまたげにならなかつただけでもよかったです。

何時間目かのこと、東隣りの四年生の教室では担任の渋谷先生がガミガミ言つておられるのが聞こえました。どうも先生が自分で作つて黒板の横に(私達の教室の後の仕切りの裏側にあたるところ)貼つてあった地図が破れていたらしく、「誰が破つたか」盛んにせんざくして居られることがわからましたが、こちらには全然関係のないことだと思ったので氣にもしていませんでした。

ところが次の時間、やはり教壇にあがつて代授業をしていた時、いきなり渋谷先生が血相を変えた私達の教室に飛び込んでこられ、「コラッ、松本ッ、おまいが地図ば破つたろうが」と怒鳴りつけられました。全く寝耳に水の嫌疑でしたが、それまで一度も先生方に叱られたことがなかった私がクラスの全生徒の面前で、よそのクラスの先生に叱られようとは夢にも思つていなかつたことで、そんな破目になつた事態に全身の血が頭に昇つてしまつたのか、それ共頭の血が全部さがつてしまつたのか、ボーッとなつてしまつて、先生の詰問

に肯定の答えも否定の答えもすることが出来なくなつてしましました。

思い出してみると、その日の休み時間に、地図や掛図を高い所につる時に使う長い竹棒をもつて「トットコ、トットコトウ」等と口ずさみながら消防士の真似をしたことがサッと頭の中を横切りました。でもまさか棒の先が後の仕切りに当つたり、その穴にはいつたりしたことはなかつた筈だと考えていました。そんなことを、思つただけでは、先生に通じません。先生は更に「貴様、キュウ後ん方で棒ばふいまわしおつたろうが」言いながら指先で私の顔を押されました。その途端に、まことに辱かしいことだが、猿又の中でジューと、シヨウベンをもらしてしまつたのです。あわてて止めてこらえたが、一度出かかったものを我慢することは仲々難かしいものです。

「皆の面前で叱られている」という非常事態と生理的現象の二つのためにその場にいることが堪えられなくなり、殆んど無意識に、私の体は教壇から飛び降り、ドアに突進し、級で一、二番に小さかつたのに、廊下から渡り廊下にくだつて五段の石段をひと飛びに飛び降りて、後も見ずに一目散に校門の方へ走りました。校門を出て右へ曲つて体育用具室の近くまで走つた時、くらえていた小便が頂点に達しかけていたので、急いでズボンの前を開けて出そうとしても、冬のことでは裕のズボン、股引が厚ぼつたく、その上教室での濡れで湿つていたし、気がせくので、私のコーチュウが仲々出でこないから四苦八苦している間に

いり観念しました。今でもその時の先生の顔と姿は、ハッキリ私の網膜に焼き付いています。

これで生理的欲求を満たさない内に又捕まつて教室に連れ戻されてしましました。でもその時はもう先生も怒鳴られるようなこともなく、じゅんじゅんとお説教をなさいましたが心の中では「早く終りにして下さらんかな」と切実に願いながらも、前をおさえるわけにもいかず本当に苦しい

時間でした。どの位たつたかやつと解放されて、便所へフック飛んで行つて用を足した時は、「叱られた」という恥などすっかり忘れてしまふ程教われた気持でした。その後私が石段をひと飛び降りましたことはしばらくの間学校中の話題になつた程でした。

剣道のやり始め

私達同級生が全員剣道の稽古をしなければならなくなつたのは、確か四年生になつてからだったと思います。道場に当たられた教室では選手や、上級生の上手な人達が防具をつけて稽古をし、他の生徒は皆校庭で、選手以外の上級生から基本を毎日指導されました。前進後退、面打ち、小手打ち、胴打ち、第一素振り、第二素振り、切り返し等、イヤという程繰返しました。渋谷先生は、姿勢に非常にやかましかつたので、私達を指導する上級生達も先生の教えに忠実で、先生同様なかなかやかましくやつて呉れました。

先生の方針と行動

渋谷先生はふだんは職員室におられて、道場に

や、三級以下の選手は残念ながら思い出せませんが、これらの選手諸士は稽古も非常に熱心で、さすがに強く、対外試合では、殆んどいつも優勝していました。職員室から高一男女の教室の廊下の上方にズラリと掲げてあった輝かしい優勝賞状は今でも橘小学校に掲げられて往時の栄光とその蔭に今も消えずに輝く渋谷先生のお努力と生徒達の精進を物語つてゐることと想ります。

対外試合のことなど

対外試合を見に行つたことは、あまりありませんが、それが武雄であつた時は一、二度行つたことがあります。確か六年の時だと思いますが、武雄小学校の講堂であった試合を見に行つた時、武雄小に丸田という選手がいて仲々強く、只得の掛け声で元気一杯動きまわり橘小の選手もかなりやられて、大いに心配したことがありました。

対外試合が終つて輝かしい優勝旗が持ち帰られて、朝礼の時に選手諸君が晴れがましく全校生徒八百に面して前の方に並び、校長先生から優勝の喜びと選手の活躍、渋谷先生のお骨折りが伝達されるのも度々でした。ところがこの時いつも顔色の冴えない選手が一人居ました。個人の名を挙げて申し訳ありませんが、その人は背が一番高い、頑張りませんでした。初めの頃はなぜか良くわからなかつたが、放課後、稽古の時になるといつも先頭に立つて練習に励む楨さんが、面を膝の前に置いて、手拭までかぶった頭を深くさげて静坐していました。こんなことが一度ならずでした。これも初めのうちはどうしてだかわかりませんでした

には日に一度か二度顔を出される位いで、校庭での私達の基本練習などには殆んど姿を見せられたことはなかつたと記憶します。然し、道場に見えた先生は鋭い目で稽古振りを監視し、特に姿勢が悪い者にはやかましく注意を与えて、竹刀で容赦なく尻を叩きつけられたり、或いは背中に棒を差し込んで頭と腰のところでしばりつけで体が前に曲がらないようにして稽古をやらされることも度々でした。

一ヶ月を除く男生徒は誰彼の区別なく、全員残つて稽古をしなければならなかつたので、早く家に帰りたい時も帰れないし、用事がつて早く帰らなければならなくとも、先生に許しを乞いに行くのが怖くて行けなかつた。農繁期以外は農家が忙しく手伝つてもらいたい時でも、男生徒は稽古をやねばならなかつたので、時には父兄から苦情も出たようだが、先生はそれをどのように処理されたか知らないが、遂には先生の熱心さと剣道の好成績とで父兄の理解を得るに至つたのではないかと想像します。

対外試合が近付くと、先生は放課後の殆んどの時間道場に居られ、選手等の稽古を見たり、練習試合をさせたり、自分でも防具をつけて選手に掛り稽古をつけたりなさいました。先生は肥つて居られたのでいつもよく椅子をもつてきて、それに腰掛けておられたが、その時は決つて、あの貧乏ゆすりをしておられたのをはつきり思い出します。先生の掛け稽古は普通のといきさか違つたものでした。竹刀を合せて立ち上つたら、一、二歩退つて「ヤーッ」という大きな掛け声を出して、先生

私が六年生の時（昭和六年）高等科二年の楨義雄さんと森弘さんが佐賀県代表として、渋谷先生の引率で、明治神宮奉納剣道大会に出場されました。よく思い出せませんがあまりいい成績じゃなかつた模様で、はるばる東京から遠路帰つてきた翌日も、道場の片隅で静坐している楨さんの姿を見て、いささか同情しました。楨さんは体が大きくて選手の中では一番強かつたのに、おとなしく気が弱い性格のためにそんな結果になったことを本当に氣の毒に思うと共に、渋谷先生の厳格さを身にしみて感じたものでした。

泊り込みの稽古

又剣道からはなれますか、渋谷先生は絵がお上

手でした。自分の学級以外の学級でも、図画の時に頼まれて指導をして下さることも度々ありました。どこか展覧会などに絵をかくとき、大聲で、言われるのを聞いたことがあります。「ハイ持つてきました」と元気のいい返事があり、「オイ、お前やあ米ば出さじいよかけんのう」と目尻を下げた先生の嬉しそうな顔をまだ忘れていません。

先生と図画

渋谷先生のお宅は、武雄町の蓬萊町の入口附近にある確かに賀屋という旅館でした。それで対外試合前の土・日や夏休み、冬休みなどには、選手達や強い者はほとんど半強制的に先生の家に泊り込んで、武雄の武徳殿や武雄小学校講堂で、武雄市内の教士や鍊士の先生方のお指導のもとで猛練習をやらされました。この先生方の中で覚えているのは大麻範士、骨接病院の副島先生、渋谷先生の弟さん等でした。先生の家に泊るには一泊につき、白米一升ときまつていましたが、昭和六七八年

があけて下さる所へスッ飛んで行つて打ち込むと先生は体を横に開かれるので、生徒は「メーン」と叫びながら道場の向う端まで突進し、そこで向きを変えて打ち掛るやり方だつた。だから五、六本も打てばかなり疲れるのだが、ヘトヘトになって体が動かなくなるまでやらされることも度々でした。

選手と私

私は身体も小さく虚弱体质だったせいもあって同級生中でも剣道は弱い方で、無論選手なんかにはなれなかつた。いつ頃からか覚えてないが、弱い私でさえ防具をつけて稽古ができるようになり少しばらくなつてかなり一生懸命練習するよう行くのが怖くて行けなかつた。農繁期以外は農家が忙しく手伝つてもらいたい時でも、男生徒は稽古をやねばならなかつたので、時には父兄から苦情も出たようだが、先生はそれをどのように処理されたか知らないが、遂には先生の熱心さと剣道の好成績とで父兄の理解を得るに至つたのではなく、私はいくらく嬉しくもあり、いくらく残念でいた記憶があります。

同級生の選手には山県豊（敬称略）尾崎哲雄、峰松竜馬、大塚国男、岩永之嗣、毛利定の諸君がいました。他で思い出せるのは、一級上の選手では、鶴崎某、野田清次、福田義見、森薰の諸兄、橘川某の諸君、二級下では、鳥越幸雄、野田利郎、副島毅、諸兄、一級下では、尾崎平次、山口秀雄の諸君です。その他三級以上

どくおこられました。それから丁度指導にきておられた南嶺の画家の山下さんに、「なんとかなんんでっしゃか」と先生はきいて下さったが、どうも駄目だつたらしく、バックにむらのあるボスターができ上つてしまつたように記憶しています。

甘納豆

剣道の稽古と甘納豆で思い出す面白い一つの、エピソードがあります。道場が狭いので、天気の良い時は、基本練習も防具をつけた稽古も校庭でやることもよくありました。その頃、覚えておられる方々も沢山あると思いますが、新店や昭和店などの文房具店では、あづきの甘納豆の入つた小袋が大型のボール紙に貼りつけてあって、一枚一錢を払うと、その小袋が一つもらえて、その中ににくじが入つていて、大、中、小、と空くじがあつて、もし「大」だつたら、上方に貼つてある甘納豆の大袋が貰えるし、あの甘納豆の甘さと共に、子供達には大変な人気がありました。

錢を払うと、その小袋が一つもらえて、その中ににくじが入つていて、大、中、小、と空くじがあつて、もし「大」だつたら、上方に貼つてある甘納豆の大袋が貰えるし、あの甘納豆の甘さと共に、子供達には大変な人気がありました。

館に連れて行つて一緒に記念写真を撮つてもらいました。その頃は写真なんか写すのは、小学校一年に入学して、初めての遠足の時と、尋常六年、高等二年卒業の時位のものだったので、その写真は本当に貴重なもので、今でも大事に持つております。

卒業とその後

私達は昭和九年三月に橋小学校高等科を卒業しました。卒業前に私は、佐賀の伯父のすすめで佐賀師範に受験することになり、勉強の質問などをするのに都合がよからうと市丸欽二先生のお宅に泊らせていただきて勉強したりしましたが、受験の結果一次試験は何とか通つたものの、二次試験では見事落ちてしまいました。

そこで卒業後三月三十一日からだつたか、渋谷先生と市丸先生のお世話で、武雄の井上武陵館に店員として住み込みましたが、五月の末か六月の始め頃、東京の母の従兄の弁護士さんから、「来い」と呼んできているがどうするかと母から知らせがありました。私は是非東京へ行きたかったけれど、その頃全く若氣の至りだったのか筋道も通すことも知らなかつたのでしょうか。今から考えると誠に恥かしいことながら、お世話を下さった渋谷先生にも市丸先生にも相談することなく、又自分で武陵館のご主人に暇を乞う勇気もなくて、或る早朝、シンゲン袋をかついで逃げ出して片白の家に帰つてしましました。

私が東京に向けて高橋駅を出発したのは、昭和九年六月十七日でした。母や弟妹に見送られて、高橋駅で汽車を待つていると、思いがけず渋谷先

をして「おうい、誰か甘納豆ばくるつぞ」と叫んだところ、二、三人が稽古を止めて飛んできて、確かに森田信尊さんだつたか（間違つていたらごめんなさい）いきなりその小袋をつかんで片方の手で面を押し上げ、口を出して小袋を口につけて仰向いて正に中味を口に流し込もうとした瞬間、本当のことを知つてゐる連中が、まわりで「ワアーッ」と歎声をあげて逃げ散つたので、彼は「おかしい」と氣付いて、掌に袋の中味を出して見たところ、それこそひどい真赤なにせ物。彼は怒るまいことか、脱兎の如くに逃げた連中を追い駆けて、捕まつた共謀者達は、ギュウギュウな目に合わされました。このことは後日渋谷先生の耳に入つて、「馬鹿共が」と大笑いされたと聞きました。

先生の温かい人間味

渋谷先生が生徒を叱つてばかりいるやかましい先生だけないことがその内に段々とわかつきました。それは五年生の時のことでしたが、理科室で理科の授業があるので、私達は理科室にはいついていました。よくあることで、いつもの教室とちがうところに行くと生徒達はうれしくなるのかしきりに騒いでいました。始業の鐘が鳴つて担任の黒岩先生が入つてこられても騒ぎはおさまらず、黒岩先生はスッカリ頭にきたらしく「ガッガッガッガ」と怒鳴つて職員室に引き揚げてしまわれました。私が職員室に黒岩先生を迎えて行くと先生は大きな火鉢にあたりながら渋谷先生と話をしておられ、私にはうてあつて下さいませんでした。

同級生佐賀で優勝

昭和八年十月十五日高等二年の時、同級生の選手達、山崎豊君を主将に、峰松比良雄、尾崎哲雄信省電気試験所で勤務、夕方五時半から九時までの授業を受け、十時に帰宅してノートの整理や、復習で大抵十二時、時により二時頃になることもあります。しかし、橋小学校で、渋谷先生にきたえられた基礎の上に中学時代も剣道を続けていたので十分に耐えることができました。これもやはり、渋谷先生のお蔭をこうむつてゐるのだと思ひます。

昭和十七年五月に徴兵検査で帰郷した時は武雄中学に渋谷先生を訪ねました。確かその時が渋谷先生に会つた最後だったと思ひます。終戦後昭和二十二年六月に帰郷して、翌年四月から北方中学に三年間、佐賀農業高校に一学期間勤務し、昭和二十六年九月に再上京して就職し現在に至つていますが、その後も毎年、年賀状を渋谷先生に差上げていました。又記憶にありませんが、何時だつたか先生の息子さんから先生が亡くなられたといふ知らせを受けましたが、食うこととに追われて、その後帰郷したのは一回だけの駆け足で、まだ先生の墓参も果せないで心苦しく思つてゐます。

むすび

「渋谷先生と剣道」について、以上思い出せるだけを述べながら、剣道に直接関係のないことも又自身の個人的なこともかなり書いてしまいましたが、それは、渋谷先生がやかましい先生であった反面、生徒達のことを非常に心配して下さるやさしいお心を持つ温かい人間味のある先生だつたことを強調したかったからに外なりません。

この思い出の中には、私だけに限られたものもた。その後何度も同じことを繰り返している内に二時間、三時間と時間が経つて弁当の時間も過ぎてしましました。私は先生とクラスの同級生一同の間にはさまって困り切つていました。最後に職員室に行つた時、渋谷先生が黒岩先生に「もういい加減許してやんさいの」と言つて下さいました。が駄目で、私はスゴスゴ理科室に戻り「どうしようか」と思ひ悩んでいました。

間もなく、突然、渋谷先生が理科室に入つてこられて、いろいろと話をして下さいました。渋谷先生はそんな時のお話が大変お上手で、クラス全員がしまいには泣き出してしまいました。事実先生ご自身も話しながら涙を流しておられました。そして最後に「きょうはこいで帰つてよか、おいで」とは、クラスの誰も「渋谷先生なやかましかばっかりやなか、ほんなどたあ、よか先生バイ」と感銘したことだろうと思ひます。

しゃって、私達を解放して下さいました。この時は、クラスの誰も「渋谷先生なやかましかばっかりやなか、ほんなどたあ、よか先生バイ」と感銘したことだろうと思ひます。

間もなく、突然、渋谷先生が理科室に入つてこられて、いろいろと話をして下さいました。渋谷先生だけないことがその内に段々とわかつきました。それは五年生の時のことでしたが、理科室で理科の授業があるので、私達は理科室にはいついていました。よくあることで、いつもの教室とちがうところに行くと生徒達はうれしくなるのかしきりに騒いでいました。始業の鐘が鳴つて担任の黒岩先生が入つてこられても騒ぎはおさまらず、黒岩先生はスッカリ頭にきたらしく「ガッガッガ」と怒鳴つて職員室に引き揚げてしまわれました。私が職員室に黒岩先生を迎えて行くと先生は大きな火鉢にあたりながら渋谷先生と話をしておられ、私にはうてあつて下さいませんでした。

手達、山崎豊君を主将に、峰松比良雄、尾崎哲雄大塚国男、山崎次男、岩永元嗣君等が、佐嘉神社奉納並第三十二回大日本武徳会佐賀支部演武大会に出場し、見事優勝しました。私は片親のない貧乏人の息子だったので汽車賃を使ってまで応援には行けなかつたと思ひます。ところがその後どんな機会だつたか全然思い出せませんが、武雄で以上の選手と私を担任の市丸欽二先生が森山写真

ありますが、渋谷先生のもとで剣道を習い、又先生の担任学級の生徒であった方々は、先生について、いろいろの思い出を持って居られることと思います。その思い出は、やはり私のものと同様に、渋谷先生の立派な人格をほのぼのと思い出せるものであることを願っております。

これから先、年月が経つにつれて、渋谷先生の思い出を持つ方が段々と減っていくことと思いま
すが、せめて橋で剣道をやる若い世代の人々には

「昔、渋谷先生という立派な先生が橋小学校に居られ、先生のお蔭で、橋の剣道は盛んになり、剣道を通して、心身共に健全な人々が輩出して、社会のために尽している」ということを教えてやつていただければ、渋谷先生の剣道の精神が、これからも末永く人々の心に残ることと信じます。

年	月	主催者	県下小学校剣道大会	全	全	全	全	全	全	全	6	6	5	4	昭3
鳥栖公民館落成記念大会	佐賀農学校主催剣道大会	佐賀中学校主催剣道大会	武雄中学校主催剣道大会	鹿島中学校主催剣道大会	佐賀高等學校主催剣道大会	明治神宮体育大会	佐賀県小学校代表会	上上	主催者						
優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優等科	優等科	優等科	優等科	尋常科	尋常科	準優勝	順位
全員高2	佐賀農学校主催剣道大会	佐賀中学校主催剣道大会	武雄中学校主催剣道大会	鹿島中学校主催剣道大会	佐賀高等學校主催剣道大会	明治神宮体育大会	佐賀県小学校代表会	上上	出場選手						
榎義雄、森弘、石橋利郎、淵文夫、森田信尊	榎義雄、森弘、石橋利郎、市丸幸八、森田信尊	6年生	6年生	5年生	5年生	5年生	5年生	5年生	年月						
補市丸幸八	補淵文夫	補榎義雄	補森弘	補石橋利郎	補市丸幸八	補森田信尊	補森田信尊	補市丸幸八	補市丸幸八	補森田信尊	補市丸幸八	補森田信尊	補市丸幸八	補森田信尊	年月



橘小学校陸上について

鉛山輝

まとめる様との依頼をうけたので、町内の人々の話を、まとめることにした。

あの有名な一区の連合運動会は、大正の初期に始まり、武雄部八学校の、代表選手が平常鍛えた健脚を競つたもので、これは年中行事の大きな催しであつた。選手は学校の名運をかけて走るし、応援団は、先生方が、先頭になつての、熱のこもつたものであつた。橋小学校の選手達は、九月から、連合運動会のあるまで、毎日徒步で、会場の「ツバキ原」まで練習に行つたが、帰えりはいつも夕刻、腹はペコペコ、時には、「ミカン」をこそり取つて、先生に叱られた選手もいたとか？橋小学校の選手は、胸のところに、校紋を染めぬいた、「ランニングシャツ」を着用鍛えに鍛えた練習の効果があつて、何時も優勝していた、とのことである。

しかし、この連合運動会は、競争が激しくいろいろと問題があつたとかで、優勝旗は、とうとうおづけになつてしまつた。
これから他人のことになるが、先づ第一に村山亀次郎のことを、書くことにする。

次に峰松経男は、村山より六年程後輩だが、高等二年の時に佐賀師範主催、県下学童大会で、県内の強豪を抑えて優勝、又この時八〇〇メリレーに橋小チームは優勝している。

大正末期には、坂口安次が抜群の力を発揮した。一区の連合運動会には必らず一位であつたが、卒業後九州電力創立十五周年記念陸上競技大会が、嬉野で開催された際、彼は一五〇〇米決勝に凡ゆる強豪を抑えて優勝したが、おいしいかな戦死して今は故人となっている。

昭和になつて山県豊という素質に恵まれた名選手がいた。彼は六年生の時、中学二年生の最高記録を出し、県大会には、二〇〇米で県学童記録を更新し、なお高等二年の時も、県大会で一〇〇米、二〇〇米を制覇し、その上、全九州学童陸上競技春日原大会では一〇〇米に入賞して、抜群の力を発

昭和十四年片山武雄は、県下学童陸上大会に出場四〇〇米に優勝、又川原静雄は走幅跳に優勝した。これに、松尾、山崎、小田を加えた八〇〇米リレーは強力であった。

昭和十五年には、片山武雄は、全九州学童陸上春日原大会で、一〇〇米、四〇〇米に入賞を果たした。

戦時中、対外試合は中止されたが、昭和二十一年
代表として活躍しながら、特に、小田繁司が走り
跳で優勝した。その年、有田工業の招待陸上に県
内ばかりでなく、隣県選手もある中で、一〇〇米
二〇〇米、四〇〇米、八〇〇米の個人と、八〇〇
米リレー全種目に、一位と云う完全優勝を果たし
又中村守は、四〇〇米、八〇〇米の二種目制覇、
橋小学校陸上史上、最高の成果を収め得たが、昭
和二十二年、新制中学が発足し、高等科がなくな
つたので、橋小学校としての、県大会出場は昭和
二十一年が最後となつた。これは全国小学校生徒
の对外試合は全面的に禁止された結果である。

